



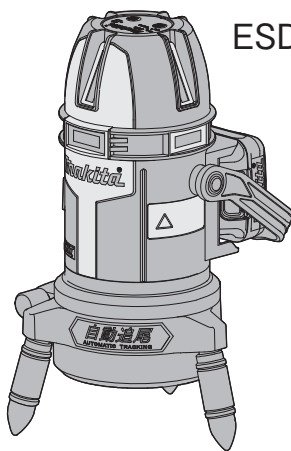
取扱説明書

充電式屋内・屋外兼用
追尾墨出し器

モデル SK507GDN

モデル SK314GDN

ダイレクトグリーン
超高輝度
ESD 保護対策



このたびはマキタ充電式屋内・屋外兼用追尾墨出し器をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。

ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。

なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

ほかの人に貸し出す場合は、一緒に
取扱説明書もお渡しください。



目次

• 主要機能	3
• 安全・使用上のご注意	5
警告事項	6
注意事項	10
• 特徴	12
• 各部の名称	13
• 標準付属品	14
• 別販売品	14
• 使用方法	16
バッテリー（別販売品）について	16
バッテリー（別販売品）の取り付け・取りはずし方	16
バッテリー保護機能	17
バッテリーを長持ちさせるには	17
バッテリーの回収について	17
充電器の点検・修理・保管方法	17
バッテリーの充電方法	17
単3形電池パック（別販売品）について	18
墨出し器の使い方	18
1. 墨出し器の設置について	18
2. 電源スイッチの操作	19
3. ライン光の輝度切替	19
4. ライン光の投射モード切替	20
5. 水平微動装置	21
6. ゴム足キャップ	21
リモコン追尾受光器の使い方	22
ライン光の検出	23
リモコン機能の使い方	24
自動追尾機能の使い方	25
リモコンチャンネルの切替	27
• 精度の点検	28
1. 水平ライン精度の点検	28
2. 鉛直点および垂直ライン精度の点検	29
3. 通り芯精度の点検	29
4. おおがね精度の点検	30
• 保証書／保証規定	31

主要機能

(1) 追尾墨出し器

		SK507GDN		SK314GDN	
レ ー ザ ー 投 射	光 源	ライン光 : 緑色半導体レーザー 下部スポット光 : 赤色半導体レーザー			
	波 長	510 ～ 530nm (下部スポット光 650 ～ 660nm)			
	光 出 力	各 10mW 以下 (JIS C 6802 : 2018 レーザークラス 2)			
	ラ イ ン 幅	2.5mm / 10m			
	ラ イ ン 投 射 角	垂直 130°± 10% 通り芯 240°± 20% 水平 110°± 10%、360°		垂直 130°± 10% 通り芯 240°± 20% 水平 110°± 10%	
	スポット径	1.5mm / 1m (下部スポット光)			
ラ イ ン 光 切 替		ろく／さげふり・ろく／ おおがね・ろく／ おおがね・ろく 200°／ おおがね・通り芯・ろく／ クロスライン・ろく／ 全周ろく／フルライン		ろく／ さげふり・ろく／ おおがね・ろく／ おおがね・通り芯・ろく	
輝 度 切 替		4 モード：エコモード／通常モード／高輝度モード／超高輝度モード (エコ／通常／高輝度のみパルス)			
指 示 方 式		ジンバル機構による自動鉛直指示			
鉛 直 指 示 範 囲		± 1.5° (範囲外は消灯で警告)			
自 動 追 尾 装 置		リモコン追尾受光器 (LDG-6) 対応			
制 動 方 式		マグネットダンパー方式			
精 度		投射光：± 1mm / 10m おおがね：90°± 0.01°			
電 源		バッテリー／単 3 形電池パック (単 3 形アルカリ乾電池× 8 本)			
使 用 時 間 (BL1015 使用時)			フルライン時 (SK507GDN のみ)	おおがね・ 通り芯・ろく時	おおがね・ろく時
		エコモード時	約 7h	約 14h	約 16h
		通常モード時	約 5h	約 9h	約 11h
		高輝度モード時	---	約 5h	約 7h
		超高輝度モード時	---	---	約 5h
使 用 温 度 範 囲		－ 10℃～＋ 40℃			
バ ッ テ リ 切 れ お 知 ら せ 表 示		バッテリー切れお知らせランプ (黄色) 点灯			
ESD 保 護 対 策		レベル：4 (国際規格 IEC61000-4-2)			
寸 法		径φ 101mm × 高さ 255mm (突出部を除く)			
質 量 (バ ッ テ リ 含)		1.8kg (バッテリー BL1015 搭載時)			
三 脚 ネ ジ		W5 / 8			
		リモコン追尾受光器、バイス、レーザー用透視メガネ、収納ケース、 肩掛けベルト			

※ 仕様および形状などは改良のため変更する場合があります。

※ 仕様値は使用環境条件等により異なります。

※ 0°C以下での使用の際、電源投入直後はラインが薄くなる場合がありますが故障ではありません。
レーザーを点灯させ安定するまでお待ちください。

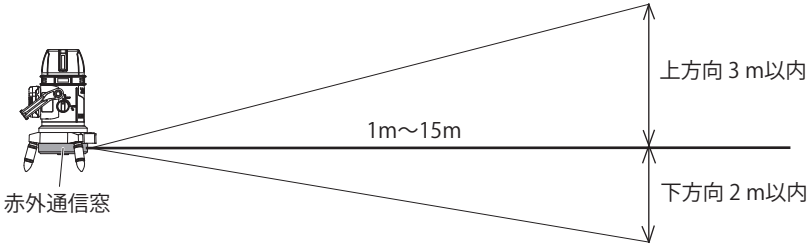
(2)リモコン追尾受光器

機能	●グリーンレーザー光位置検出（受光機能） ●自動追尾機能 ●リモコン機能 1) 本体水平回転 2) ライン光投射モード切替 3) ライン光輝度切替 4) ライン光消灯	
受光距離	1m ～ 25m（墨出し器の輝度：通常モード時）	
受光精度	レーザー光中心から± 1mm 以内	
受光検出表示	表示 LED	ライン LED 3 段階表示：赤色／緑色／橙色
	ブザー音	検出音：連続／断続音
	ブザー音量	音量 3 段階切替：小→大→消音
	音量表示	緑色点灯：小音量、赤色点灯：大音量、消灯：消音
自動追尾使用距離	1m ～ 15m（墨出し器の輝度：通常モード時）	
リモコン使用距離	1m ～ 15m	
電源	単 4 形アルカリ乾電池（LR03）× 4 本	
電池交換表示	電源表示 LED 点滅で電圧低下警告	
使用温度範囲	－ 10℃～＋ 40℃	
防塵防水性能	保護等級 IP56（JIS C 0920）	
寸法	188mm × 56mm × 39mm	
質量	210g（乾電池含む）	

※ 仕様および形状などは改良のため変更する場合があります。

※ 仕様値は使用環境条件等により異なります。

リモコン機能、自動追尾機能 使用距離：1m ～ 15m



※ 上記リモコンの使用可能距離は、屋内での目安です。

安全・使用上のご注意

注意文の 警告 ・ 注意 ・ 注 の意味について

ご使用上の注意事項は  警告 ・  注意 ・  注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

警告

誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

注意

誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお  注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注

製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なご注意。

警告

- ・ ご使用前に、「取扱説明書」と「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上正しく使用してください。
- ・ 感電、火災、重傷などの事故を未然に防ぐために、この「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ・ 「充電工具」は、充電式（バッテリーパック式）電動工具を示します。

a) レーザー光に関する安全事項

- ・ 本機はレーザー光を投射します。レーザー安全基準（JIS C6802:2018）のクラス 2 に準拠していますが、以下の内容に注意してください。
 - 光学器具で直接レーザー光を見ないでください。望遠鏡やルーペなどでレーザー光を直接見ると危険です。
 - レーザー光を直接のぞかないでください。
 - レーザー光路は眼の高さを避けてください。
 - レーザー光路に立ち入らないようにしてください。
 - レーザー光路に反射物を置かないでください。
 - レーザー光を他の人に向けしないでください。
- ・ レーザー光を連続して見ると、視力障害を起こすことがあります。障害が疑われる場合は速やかに医師の診断を受けてください。

b) 作業環境

1. 作業場は、整理整頓してください。また、十分に明るくし、いつもきれいに保ってください。
 - ・ ちらかった暗い場所や作業台は、事故の原因となります。
2. 可燃性の液体・ガス・粉じんのある場所で使用しないでください。
 - ・ 充電工具から発生する火花が発火や爆発の原因になります。
3. 使用中は子供や第三者を作業場に近づけないでください。
 - ・ 注意力が散漫になり、操作に集中できなくなる可能性があります。
 - ・ 作業者以外、充電工具や充電器のコードに触れさせないでください。
4. 十分な、防じん対策や飛散防止対策をしてください。
 - ・ 特に、人体に有害な成分を含む材料を加工するときは、注意してください。
5. アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業含む）で使用しないでください。
 - ・ アスベストは、人体に肺がんなどの重大な健康被害を発症させる物質です。

c) 電気に関する安全事項

1. 電源コンセントは充電器の電源プラグに合ったものを使用してください。また、電源プラグの改造をしないでください。接地付きプラグは確実にアースをしてください。
 - ・ 改造していない電源プラグおよびそれに対応するコンセントを使用すれば、感電のリスクが低減されます。
2. 金属製のパイプや暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫の外枠などアースされているものに身体を接触させないようにしてください。
 - ・ 感電する恐れがあります。
3. 充電工具、バッテリーおよび充電器は、雨ざらしにしたり、湿った、または濡れた場所で使用したり、充電したりしないでください。
 - ・ 充電工具や充電器内部に水が入り、感電やバッテリーが短絡（ショート）する恐れがあります。
 - ・ バッテリー内部に水が入り短絡（ショート）すると、発熱、発火、破裂の恐れがあります。
4. 充電器の電源コードを乱暴に扱わないでください。
 - ・ 電源コードを持って充電器を運んだり、引っ張ったりしないでください。また、電源プラグを抜くために電源コードを利用しないでください。

⚠ 警告

- ・電源コードを熱、油、角のある所、動くものに近づけないでください。電源コードが損傷したり、身体に絡まって感電する恐れがあります。
5. 使用環境に適した延長コードを使用してください。
 6. USB 端子付きの充電工具や充電器は端子間を短絡（ショート）させないでください。
 - ・釘、針金が USB 端子内に入ると、短絡（ショート）して発煙、発火の恐れがあります。

d) 充電工具の保管

1. 使用しない充電工具、充電器およびバッテリーは、子供の手の届かない乾燥した鍵のかかる場所に保管してください。
 - ・充電工具や充電器からバッテリーを抜いて保管してください。
 - ・充電器は電源コンセントから電源プラグを抜いて保管してください。
 - ・バッテリーはバッテリーカバーをつけて保管してください（バッテリーカバー付きの場合）。

e) バッテリーの使用と手入れ

1. バッテリーを差し込む前に、スイッチが切れていることを確認してください。
 - ・スイッチがオンの位置にあるときにバッテリーを差し込むと事故につながります。
2. バッテリーは専用充電器以外では充電しないでください。
 - ・ほかのバッテリー用の充電器を流用すると、火災、発熱、破裂、液漏れの恐れがあります。
3. マキタが指定した専用バッテリー以外使わないでください。また、改造したバッテリー（分解してセルなどの内蔵部品を交換したバッテリーを含む）を使用しないでください。
 - ・墨出し器の性能や安全性なども損なう恐れがあり、火災やけが、故障、破裂などの原因になります。
4. バッテリーの端子部を金属などで接触させないでください。
 - ・バッテリーを金属と一緒に工具箱や釘袋などに保管しないでください。短絡して発熱、発火、破裂の恐れがあります。
 - ・本機または充電器からはずした後は、バッテリーにバッテリーカバーを必ず取り付けてください。
5. 高温などの過酷な条件下ではバッテリーから液漏れすることがあります。濡れ出た液体に不注意に触れないでください。
 - ・万が一、バッテリーの液が目に入ったら、直ちにきれいな水で十分洗い医師の治療を受けてください。
 - ・バッテリーの液は炎症ややけどの原因になることがあります。
6. ご使用済みのバッテリーは一般家庭用ゴミとして棄てないでください。
 - ・棄てられたバッテリーがゴミ収集車内などで破壊されて短絡（ショート）し、発火、発煙の原因になる恐れがあります。

f) 電池の注意事項

1. 電池を誤って飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
2. 高温などの過酷な条件下では電池から液漏れすることがあります。漏れ出た液体に不注意に触れないでください。
3. 電池は誤った使い方をしますと、破裂・発火の原因となることがあります。また、液漏れをして機器を腐食させたり、手や衣類などを汚す原因にもなります。
4. 電池の取扱いについては、次の点に特に注意してください。
 - ※金属小物（かぎ、コイン、装飾品ネックレスなど）と一緒にポケットやかばんなどに入れないでください。
 - ※加熱したり、火の中へは絶対に投げ込まないでください。

⚠ 警告

- ※分解したり、ハンダ付けしないでください。
- ※端子をショート（短絡）させないでください。
- ※電池のプラスとマイナスの向きを逆さに取り付けしないでください。
- ※電池が液漏れした場合は、電池ホルダ内に付いた液をよく拭き取り、新しい電池と交換してください。
- ※電池の液は炎症ややけどの原因になることがあります。
- ※漏れた液が身体に付いたときは、水でよく洗い流してください。
- ※万が一電池の液が目に入ったときは、直ちにきれいな水で十分洗い医師の治療を受けてください。
- ※使用済みの乾電池を処分する際は、お住まいの市町村の指示に従って処分してください。
- ※使用済みの充電電池は、端子にテープなどを貼って絶縁してから、リサイクルボックスにお入れください。

g) 整備

- ・墨出し器は、専門家による純正部品だけを用いた修理により安全性を維持することができます。
- ・本機、充電器、バッテリーを分解、修理、改造はしないでください。発火したり、異常動作して、けがをする恐れがあります。
- ・本機が熱くなったり、異常に気づいたときは点検・修理に出してください。
- ・本機は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- ・修理は、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
- ・修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの恐れがあります。
- ・アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業含む）で使用した本製品の保守・点検・修理は受付できません。

h) その他の安全事項

1. 損傷した部品がないか点検してください。

- ・使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。異常がある場合は、使用する前に修理を行ってください。
- ・破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書に従ってください。取扱説明書に記載されていない場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。スイッチが故障した場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。
- ・異常・故障時には、直ちに使用を中止してください。そのまま使用すると発煙・発火、感電、けがに至る恐れがあります。
 - ＜異常・故障例＞
 - ×本製品やバッテリーが異常に熱い。
 - ×電源コードに深いキズや変形がある。
 - ×電源コードを動かすと、通電したりしなかったりする。
 - ×焦げくさい臭いがする。
 - ×ビリビリと電気を感じる。
- ・スイッチを入れても動かないなど不具合を感じた場合は、すぐにバッテリーを抜いてお買い上げの販売店、または当社営業所に点検、修理をお申し付けください。

警告

2. 正しい付属品や別販売品を使用してください。
 - ・この取扱説明書および当社カタログに記載されている付属品や別販売品以外のものを使用すると、故障、事故、けがの原因となる恐れがあるので使用しないでください。
 - ・本機が熱くなったり、異常に気づいたときは点検・修理に出してください。
 - ・本機は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - ・修理は、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
 - ・修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの恐れがあります。
3. 使用時間が極端に短くなったバッテリーは使用しないでください。
4. 落としたり、何らかの損傷を受けたバッテリーは使用しないでください。
5. 雷が鳴ったり、長期間使用しない場合には、電源から電源プラグを抜いてください。感電や火災の原因になります。
6. ラッカー、ペイント、ベンジン、シンナー、ガソリン、ガス、接着剤などのある場所では充電しないでください。
 - ・爆発や火災の恐れがあります。
7. 火災の恐れがあります。次のようなことをしないでください。
 - ・ダンボールなどの紙類、座布団などの布類、畳、カーペット、ビニールなどの上では充電しないでください。
 - ・風窓のある充電器は、充電中に風窓をふさがないでください。また風窓に金属類、燃えやすいものを差し込まないでください。
 - ・綿ぼこりなど、ほこりの多い場所で充電しないでください。
8. 充電器のバッテリー装着部には充電用端子があります。金属片・水などの異物を近づけないでください。
 - ・そのまま充電を続けると発煙、発火、破裂の恐れがあります。
9. 充電器は充電以外の用途には使用しないでください。
10. 充電中、発熱などの異常に気が付いたときは、直ちに電源プラグを抜いて充電を中止してください。そのまま充電を続けると発煙、発火、破裂の恐れがあります。
11. バッテリーはマキタ製品以外に取り付けて使用しないでください。
 - ・火災、発熱、破裂、液漏れの恐れがあります。
12. バッテリーは、火への投入、加熱をしないでください。
 - ・発火、破裂の恐れがあります。
13. バッテリーに釘を刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしないでください。
 - ・発熱、発火、破裂の恐れがあります。
14. バッテリーを火のそばや炎天下など高温の場所で充電・使用・保管しないでください。
 - ・バッテリーを周囲温度が50℃以上上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。バッテリー劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。
15. 正しく充電してください。
 - ・充電器は定格表示してある電源で使用してください。昇圧器などのトランス類を使用したり直流電源やエンジン発電機では使用しないでください。（当社インバータ制御付エンジン発電機は除く。）異常に発熱し、火災の恐れがあります。
 - ・周囲温度が10℃未満、または周囲温度が40℃以上ではバッテリーを充電しないでください。破裂や火災の恐れがあります。
 - ・バッテリーは、換気のよい場所で充電してください。バッテリーや充電器を充電中、布などで覆わないでください。破裂や火災の恐れがあります。

⚠ 警告

- ・ 使用しない場合は、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。破裂や火災の恐れがあります。
- ・ 電源コードが踏まれたり、引っかけられたり、無理な力を受けて損傷することがないように場所で充電してください。発煙、発火、感電の恐れがあります。

16. ぬれた手で電源プラグに触れないでください。

- ・ 感電の恐れがあります。

17. バッテリーは、電力量が 100Wh を超える場合、危険物に分類されます。

- ・ 輸送の際は、輸送会社にお問い合わせの上、指示に従ってください。
- ・ 電力量は、バッテリー裏側の注意ラベルに記載されています。

18. 使用中、使用後にバッテリーが熱くなることがあります。火傷、低温火傷の原因になるため注意してください。

- ・ 使用直後は製品の端子部に触れないでください。熱くなっているため火傷の恐れがあります。

19. バッテリーに切りくず、ほこり、土などがたまらないようにしてください。

- ・ 性能が低下したり、故障の原因になります。

20. バッテリーを水のような導電体に浸さないでください。またバッテリーの内部に水のような導電体を浸入させないでください。

- ・ バッテリー内部に水のような導電体が浸入すると短絡（ショート）し、発熱、発火、破裂の恐れがあります。

⚠ 注意

1. 作業前には点検を行い精度を確認してください。点検しないと、誤差が生じた場合に誤った作業をすることになります。詳しくは【精度の点検】をご覧ください。
2. 強い振動・衝撃を与えないでください。過度な衝撃は破損や性能の低下をまねくことがあります。振動や衝撃が加わった場合には精度の点検を行ってください。
3. 本機を移動させる時は電源を OFF にしてからお持ちください。作業が終了したら電源スイッチを O/OFF 側に回してください。電源が OFF になり内部がロックされます。
4. 異常が認められた時は、本機をお使いにならないでください。すぐに作業を中止して、お買い上げの販売店または、最寄の当社営業所にお申し付けください。
5. 電源スイッチを ON 側に回してレーザーが点灯しない場合は、本機を 2,3 回軽く振ってください。本機を 2,3 回軽く振ってもレーザーが点灯しない場合は、使用を中止してお買い上げの販売店または、最寄の当社営業所にお申し付けください。
6. 電源投入時は、電源を切った時のライン光投射モードと同じモードから投射します。ライン光が眼に入らない位置でスイッチを操作してください。
7. グリーンレーザーは視認性が高いため暗室や暗い場所では内部からの反射や外部のガラス等の反射光が視認できる場合があります。
8. 結露したまま使用しないでください。急激な温度変化により結露する場合があります。結露が確認されましたら、電源を入れずに結露が取れるまで自然放置してください。
9. ライン光の交点付近では、受光器を使用しないでください。水平ライン光と垂直ライン光との交点付近では、受光器での検出ができませんので、本体を回転させるか、受光位置を変更してご使用ください。
10. 墨出し器とリモコン追尾受光器の間に障害物（手など）でさえぎらないでください。リモコンおよび追尾の赤外線信号が送受信ができず、正しい動作ができなくなります。

⚠ 注意

11. リモコン追尾受光器は外乱（反射光や蛍光灯、LED 照明、変調された光源等）により正しく検出できない場合があります。
12. 使用環境によりリモコン追尾受光器で検出または追尾しにくい時は、ライン光の明るさを通常モードで使用することを推奨します。
13. リモコン追尾受光器で追尾完了時に検出が正しくない場合、電池の容量が少ないことによる赤外通信エラーが考えられますので、新しい電池 4 本と交換して再度確認してください。
14. 他のリモコンを同時に使用しないでください。他の赤外線リモコンと混信して誤動作の原因になります。混信している場合、チャンネルを切り替えてご使用ください。詳しくは、【リモコンチャンネルの切替】をご覧ください。
15. 運搬する場合は、収納ケースに入れて運んでください。
16. 本機は必ず収納ケースに入れ、高温、多湿、振動、ほこりの多い場所を避けて保管してください。
17. レーザー光射出口の窓は光学ガラスを採用しているため汚れると高精度の検出ができなくなることがありますので、柔らかい布などで拭き取ってください。
18. 本機が汚れた時は、乾いた柔らかい布で拭いてください。汚れがひどい時は、水にひたした布をよくしぼって拭き取ります。その後、もう一度乾いた柔らかい布で水分を拭き取ってください。

アルコール、ベンジン、シンナーなどの揮発性の溶剤は使用しないでください。（変色、変形、変質などの故障の原因になります。）

19. リモコン追尾受光器は保護等級 IP56 ですが、水洗いはしないでください。
20. 絶対に分解・改造をしないでください。発熱、発火、破裂の恐れがあります。
21. 長期間ご使用にならない場合は、バッテリーを取りはずしてください。
22. 使用者への安全教育について、レーザー光の性質、危険性など、十分理解の上ご使用ください。
23. 子供には使用させないでください。

注

1. 本機に搭載できるバッテリーは、BL1015 / BL1020B / BL1040B / BL1050B です。
2. 電源が離れていて、延長コードが必要なときは、充電器を最高の能率で支障なくご使用していただくために十分な太さのコードをできるだけ短くお使いください。

使用できる延長コードの太さ（導体交称断面積）と長さの目安

延長コードの太さ（導体交称断面積）	コードの長さの目安
2.0mm ²	30m

特徴

[マキタの充電式リチウムイオンバッテリー (CXT) 対応]

- ・ 10.8V スライド式バッテリーシリーズに本機が加わりました。
- ・ お手持ちの Li-ion バッテリーを本機に装着し、長時間の使用ができます。

[ダイレクトグリーン]

- ・ 半導体グリーンレーザーを搭載しています。

[高輝度モード搭載／4段階輝度切替]

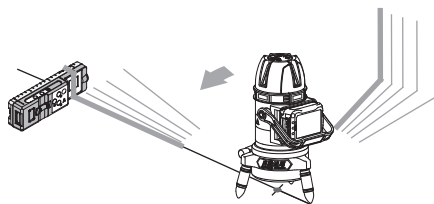
- ・ ライン光の輝度が4段階に切り替わります。
- ・ 明るい場所では超高輝度モードまたは高輝度モードに切り替えることでライン光が見やすくなります。
- ・ 通常モードは受光器使用時に最適なモードです。
- ・ エコモードでは省エネになり、使用時間が延びます。
- ・ 超高輝度、高輝度モードはライン光の投射モードに制約があります。
(詳細は 20 ～ 21 ページ参照)

[自動追尾機能搭載]

- ・ 追尾機能で一人でおおがね・通り芯の墨出し作業が簡単に正確にできます。

[フルライン投射] (SK507GDNのみ)

- ・ フルラインで投射しますのであらゆる作業での効率が高まります。

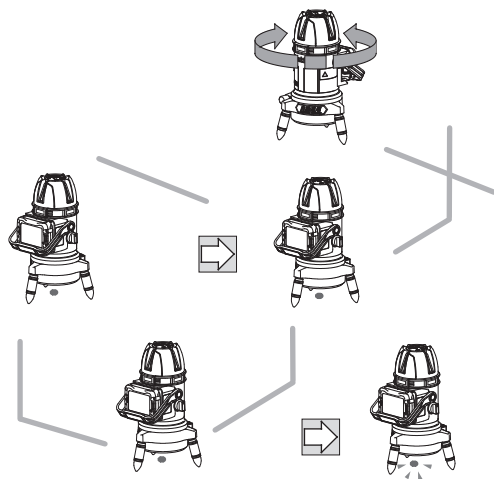


[墨出し器点灯モード記憶]

- ・ 作業を中断しても消灯前の点灯モードを記憶しています。

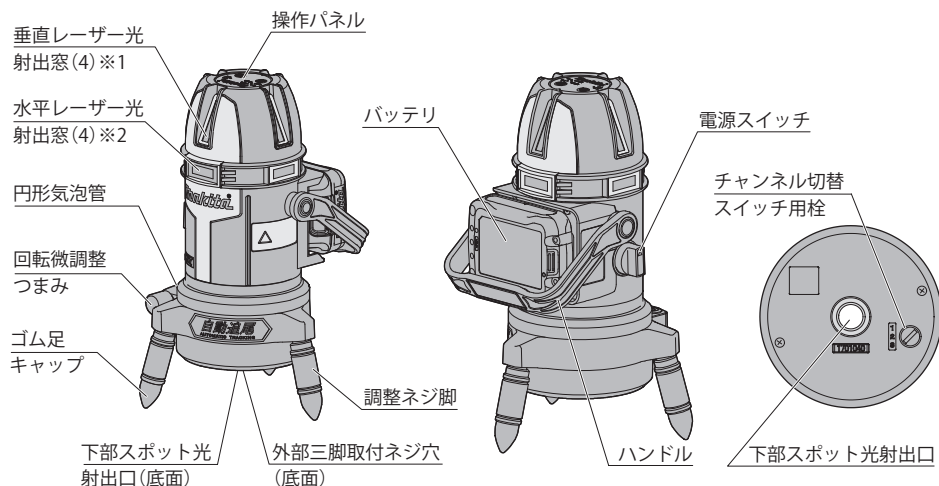
[リモコン機能搭載]

- ・ 墨出し器の水平回転 / 停止 / 逆回転を遠隔操作できます。
- ・ 墨出し器のライン光投射モードを切り替えます。
- ・ 墨出し器のライン光を消灯することができます。



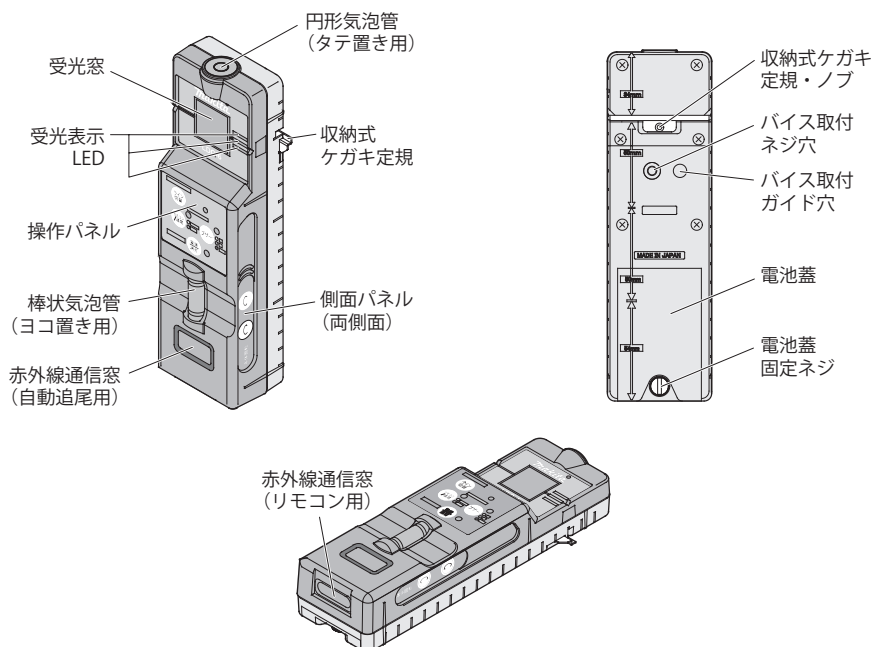
各部の名称

墨出し器

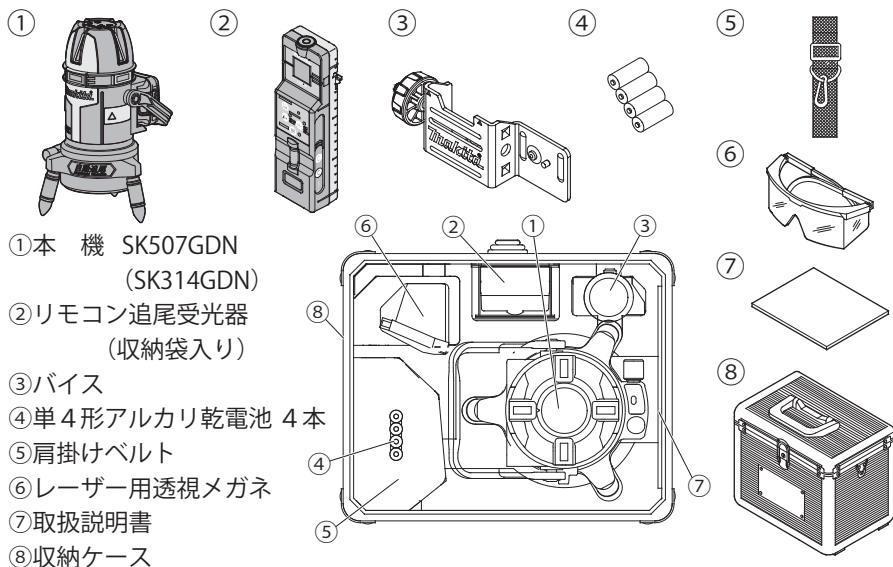


図はSK507GDN、※1印の数値はSK314GDNは(3)、※2印の数値はSK314GDNは(1)です。

リモコン追尾受光器



標準付属品

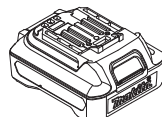
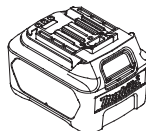
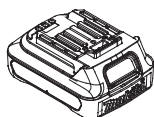
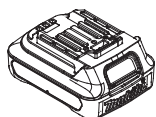


別販売品

別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げ販売店、または当社営業所へお問い合わせください。

使用可能電源

- ・ バッテリ BL1015 部品番号 (A-59841)
- ・ バッテリ BL1020B 部品番号 (A-73075)
- ・ バッテリ BL1040B 部品番号 (A-59863)
- ・ バッテリ BL1050B 部品番号 (A-77213)



- ・ 単3形電池パック ADP09 部品番号 (A-68806)



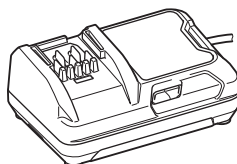
別販売品

・充電器

- ・充電器 DC10SA
部品番号 (JPADC10SA)

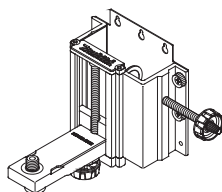


- ・充電器 DC10WC
部品番号 (JPADC10WC)

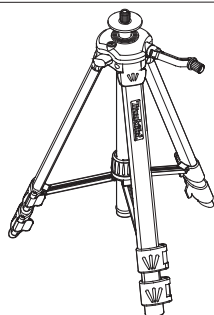


・軽天・壁掛兼用マウント

部品番号 (A-69060)



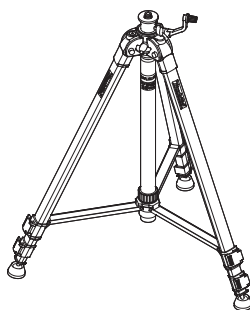
・エレベータ三脚 (下部レーザースポット光投射可能)



エレベータ三脚ミニ

部品番号 (TK00LM2000)

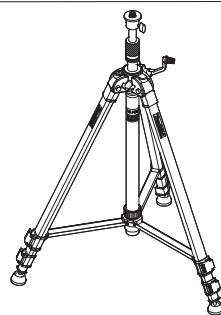
424 ~ 1,140mm



エレベータ三脚

部品番号 (TK00LM4001)

670 ~ 1,800mm



3m エレベータ三脚

部品番号 (TK00LM5030)

790 ~ 2,870mm

使用方法

バッテリー（別販売品）について

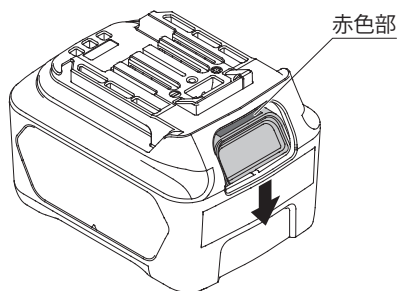
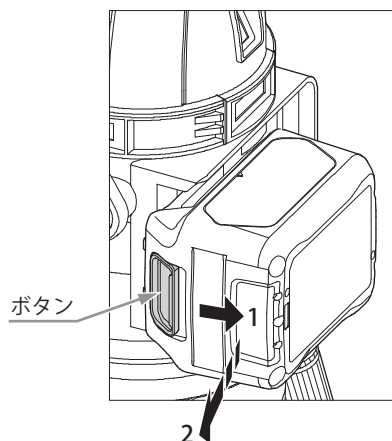
- ・ お買い上げ時は、バッテリーは十分に充電されていません。ご使用前に充電器で正しく充電してからご使用ください。
- ・ 使用しないときはバッテリーカバーをかぶせてください。バッテリーを水やほこりから保護するのに役立ちます。
- ・ 使用しないときは本機からバッテリーを抜いて保管してください。

⚠ 警告

- ・ 本製品にバッテリーを差し込む前に、スイッチが切れていることを必ず確認してください。スイッチを入れたままバッテリーを差し込むと、事故の原因になります。
- ・ バッテリーは確実に本機に差し込んでください。ボタン上部の赤色部が見えている場合は完全にロックされていません。赤色部が見えなくなるまで、しっかり差し込んでください。差し込みが不十分ですと、はずれて事故の原因になります。

バッテリー（別販売品）の取り付け・取りはずし方

- ・ バッテリーを本機に取り付けるときは、片方の手で本機を押さえながら、本機の溝にあわせ、奥まで確実に挿入してください。この際、ボタン上部の赤色部が見えている場合は完全にロックされていません。赤色部が見えなくなるまで、確実に挿入してください。
- ・ バッテリーを本機から取りはずすときは、片方の手で本機を押さえながらもう一方の手で
 1. バッテリー正面のボタンを下げながら
 2. スライドさせると取りはずせます。

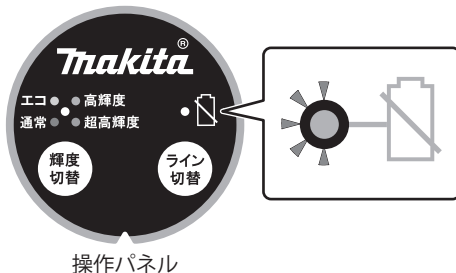


使用方法

バッテリー保護機能

バッテリー寿命を長くする目的で出力を自動停止する保護機能がついています。これはバッテリーの保護機能によるものであり故障ではありません。

- ・ 本機を使用中、バッテリー容量が少なくなると操作パネルのバッテリー切れお知らせランプが点灯します。そのまま使用を継続するとレーザー光が消灯します。
- ・ バッテリー切れお知らせランプは、ご利用状況や気温などによって実際の残容量と異なる場合があります。



バッテリーを長持ちさせるには

- ・ 満充電したバッテリーを再度充電しないでください。
- ・ 充電は周囲温度 10℃～ 40℃の範囲で行ってください。
- ・ 工具の力が弱くなってきたと感じたら使うのをやめ、充電してください。
- ・ 長期間（6 ヶ月以上）ご使用にならない場合、リチウムイオンバッテリーは充電してから保管することをおすすめします。

バッテリーの回収について

- ・ 使用済みバッテリーはリサイクルのため回収しております。お買い上げの販売店、または当社営業所へご持参ください。



リチウムイオンバッテリーは
リサイクルへ

充電器の点検・修理・保管方法

お客様がお持ちの充電器の取扱説明書に従って実施してください。

バッテリーの充電方法

- ・ バッテリー、充電器は別販売品です。お客様がお持ちの充電器の取扱説明書に従って充電を実施してください。

使用方法

- ・ いつも安全に能率よくお使いいただくために定期点検をおすすめします。修理・点検はお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
- ・ 充電器の保管場所として次のような場所は避けてください。
 - × お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる所
 - × 温度や湿度の急変する所
 - × 湿気の多い所
 - × 直射日光の当たる所
 - × 揮発性物質の置いてある所

単3形電池パック（別販売品）について

⚠ 注意

- ・ 電池の取り付け、取りはずしの際は必ず単3形電池パックの電源スイッチを OFF にしてください。故障の原因になります。
- ・ 単3形電池パックをマキタ製品に取り付けるときは、必ずマキタ製品と単3形電池パックの電源を OFF にしてください。故障の原因になります。
- ・ 単3形電池パックを使用すると、単3形電池で本製品を動作させることができます。
- ・ 単3形電池パックとマキタ製品の取り付け、取りはずし方は、バッテリーの場合と同等です。（16 ページ参照）
- ・ 詳細な使用方法は、単3形電池パック（ADP09）の取扱説明書をご確認ください。

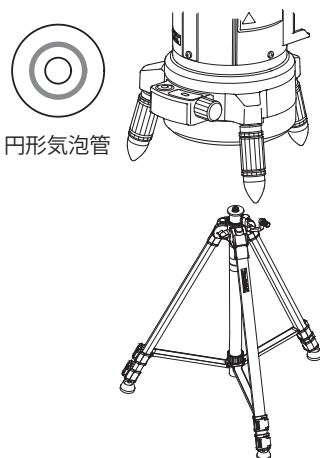
注

- ・ 電源スイッチを ON にしてもレーザーが点灯しない場合、新品の単3形電池に交換してください。墨出し器使用后、輝度切替スイッチでエコモードを選択し、電源スイッチを OFF することをおすすめします。

墨出し器の使い方

1. 墨出し器の設置について

本機を水平にします。円形気泡管の泡を赤い円の中央にくるように調整ネジ脚を回して調整します。エレベータ三脚（別販売品）を使用する場合、エレベータ三脚を先に据え付けます。続いて、墨出し器をエレベータ三脚に取り付けます。墨出し器の気泡管の泡が赤い円の中央にくるようにエレベータ三脚の脚を伸縮させてください。



円形気泡管

使用方法

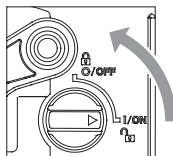
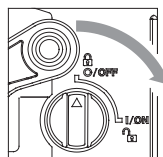
2. 電源スイッチの操作

【電源ON】

電源スイッチを「I/ON」側に回します。レーザー光が投射します。
前回電源OFFした時のライン光のモード、及び輝度で投射します。

【電源OFF】

電源スイッチを「O/OFF」側に回します。
電源がOFFし、内部の振子がロックします。
電源OFFしたあとでバッテリーを抜いてください。

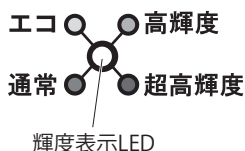


3. ライン光の輝度切替

作業に応じて投射ライン光の明るさを操作パネルの輝度切替スイッチで選択します。
電源スイッチを一度切っても、電源ON時は前回電源OFFした時の輝度で投射します。



輝度切替
スイッチ



エコ : バッテリーの使用時間が延びます。

通常 : 高輝度とエコの中間の明るさです。受光器使用時に最適なモードです。

高輝度 : ライン光が明るくなります。SK507GDN のフルラインモードでは、高輝度投射できません。

超高輝度 : ライン光がさらに明るくなります。SK507GDN、SK314GDN の超高輝度モードではなく、さげふり・ろく、おおがね・ろくの3モードのライン光投射切替になります。

⚠ 警告

・輝度切替スイッチを押していくと、ライン光の投射モードが切り替わるモードがあります。「ライン光の投射モード切替」(20～21ページ)をご参照の上、レーザー光が他の人に向かないようにしてください。

使用方法

4. ライン光の投射モード切替

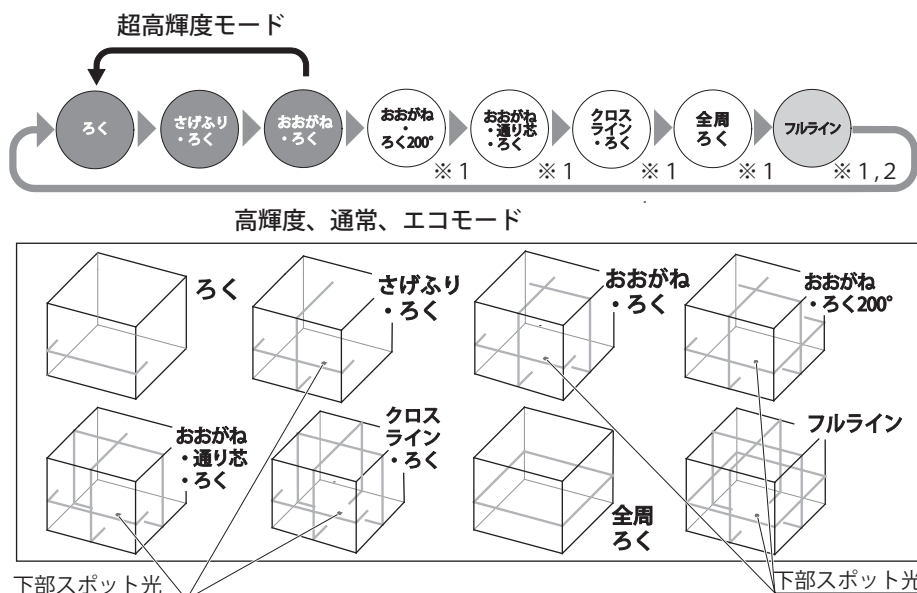
作業に応じて、ライン光の投射モードを、操作パネルのライン切替スイッチで選択します。

ライン光の投射モード記憶機能付き

電源スイッチを一度切っても再投入したときは、同じ投射ライン光で照射します。各機種の投射モード切替を以下に記載します。



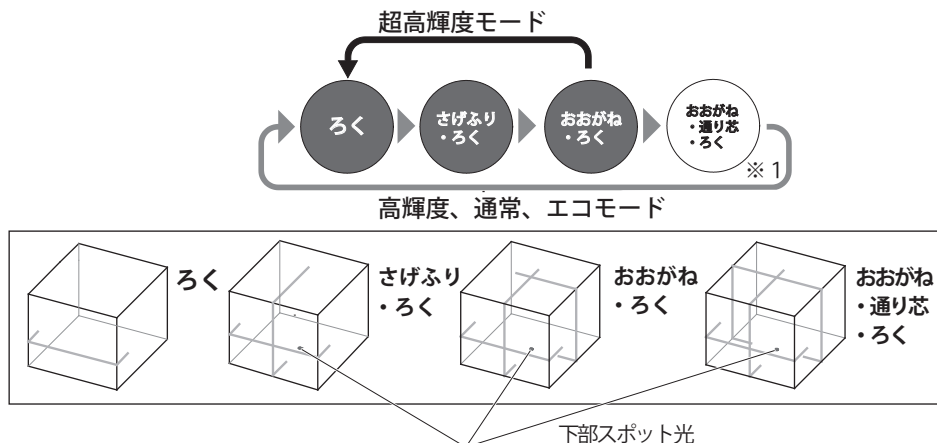
(1) SK507GDN



- ※ 1. ○印の投射モード（高輝度）時および●印の投射モード（通常モード）時で輝度切替スイッチを押すと、超高輝度モードとなり、自動的におおがね・ろくに切り替わります。さらに輝度切替スイッチを押すと、エコモードとなり、自動的に超高輝度モードの前のライン光投射モードに戻ります。
- ※ 2. フルラインモードでは高輝度投射できません。ライン切替時に自動的に通常モードに輝度が切り替わります。さらにライン切替スイッチを押すとろくとなり、自動的に高輝度モードに輝度が戻ります。
- ※ 3. ろく（水平ライン光）の高さはエレベータ三脚（別販売品）を使用すると容易にあわせることができます。

使用方法

(2) SK314GDN

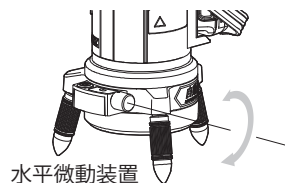


※ 1. ○印の投射モード（高輝度）時で輝度切替スイッチを押すと、超高輝度モードとなり、自動的に「おおがね・ろく」に切り替わります。

さらに輝度切替スイッチを押すと、エコモードとなり、自動的に超高輝度モードの前のライン光投射モードに戻ります。

5. 水平微動装置

回転微調整つまみを回すと、水平回転の微調整ができます。

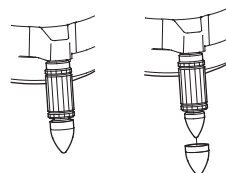


6. ゴム足キャップ

ゴム足キャップは床面にキズを付けたくないときや床面が滑りやすいときにご使用ください。

ゴム足キャップは標準装備されています。

凹凸のあるコンクリート床などでは、取りはずして使用することができます。



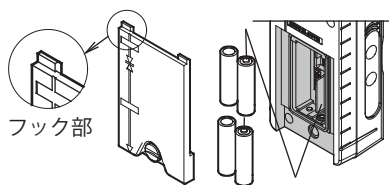
使用方法

リモコン追尾受光器の使い方

1. 乾電池の取り付け／交換

コイン等で電池蓋固定ネジを反時計回りにまわして電池蓋をはずします。

新しい単4形アルカリ乾電池4本を、電池ケースの表示に合せ(+)、(-)を正しく入れます。電池蓋のフック部を本体の穴に合せて差し込み、電池蓋固定ネジをコイン等で締付けて固定します。



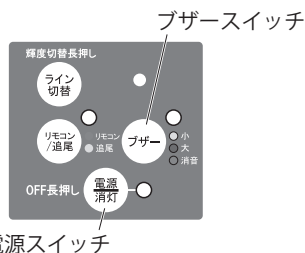
2. リモコン追尾受光器の電源を入れる。

電源スイッチを押すと、電源表示LED（緑色）が点灯します。

各種作業を開始します。

3. 電源を切る。

電源スイッチを長押しして「ピーッピィ」と鳴ってから手を離すと電源が切れます。



注

・短押しの場合、墨出し器のレーザーが消灯します。(消灯モード)

※ オートパワーオフ機能付

最後の動作から約 10 分後に自動で電源が切れます。

電源を切り忘れて放置したり、収納した場合に電池の消耗を防ぎます。

4. ブゼースイッチの切替

音量小／音量大／消音の三段階切替

ブザー表示LED… 【緑色】音量小／ 【赤色】音量大／ 【消灯】消音



使用方法

ライン光の検出

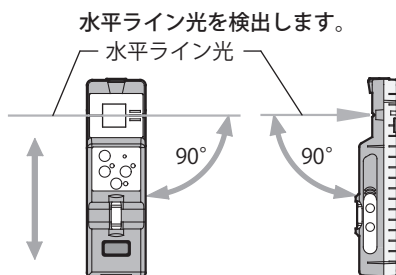
1. 墨出し器の準備

墨出し器の電源を入れます。
墨出し器のライン光を選択します。
墨出し器のライン光の明るさを通常モードで使用することを推奨します。

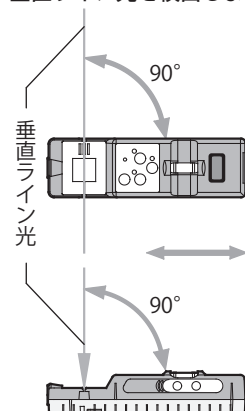
2. リモコン追尾受光器の電源を入れる。

3. リモコン追尾受光器の向き

リモコン追尾受光器の向きはライン光によって下図のようにします。



垂直ライン光を検出します。



4. ライン光の受光

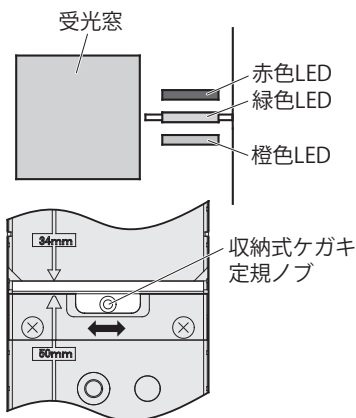
ライン光が受光窓に当たるようにリモコン追尾受光器を動かします。
受光表示LEDとライン光の位置は連動していますので受光表示LEDが点灯している位置にライン光が投射していることが分かります。

5. 気泡管の確認

受光表示LED（緑色）が点灯する位置で、タテ置き用又はヨコ置き用の気泡管の泡が中央付近にくるようにリモコン追尾受光器を動かします。

6. 検出位置を印する

収納式ケガキ定規を使用すると鉛筆などで壁面や床面に印するときに便利です。



使用方法

リモコン機能の使い方

1. 墨出し器の準備

墨出し器の電源を入れる。

2. リモコン追尾受光器の電源を入れる。

注

・墨出し器とリモコン追尾受光器のチャンネルが合っていないと反応しませんので事前に確認してください。（「リモコンチャンネルの切替」27 ページを参照してください。）

3. 墨出し器をリモコン操作

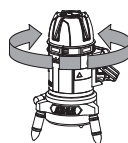
(1) 本体を水平回転

リモコン追尾受光器の赤外線通信窓を墨出し器に向けて回転スイッチを押すと墨出し器が回転します。

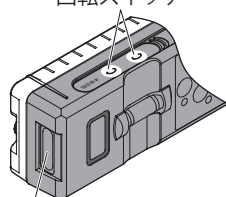
スイッチは左/右回転どちらか回転させたい方向を選んでください。

回転を停止させるには同じ回転スイッチをもう一度押してください。

リモコンによる回転時、一定時間操作されない場合は自動的に回転を停止します。



回転スイッチ



赤外線通信窓
(リモコン用)

(2) ライン光の投射モードを切替

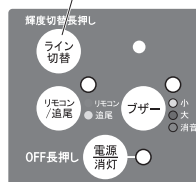
作業に応じて投射ラインのモードを切替できます。

短押しでライン光の投射モードが切り替わります。

スイッチを押す毎に「ピー」とブザーが鳴ります。

ライン光の投射モードについては「ライン光の投射モード切替」(20～21 ページ)を参照してください。

ライン切替スイッチ



(3) ライン光の輝度切替

リモコン追尾受光器の赤外線通信窓を墨出し器に向けてライン切替スイッチを長押しする毎に墨出し器のライン光の明るさが4段階に切り替わります。

ブザー音が「ピーッピー」と2回鳴ります。

ライン光の明るさについては「ライン光の輝度切替」(19 ページ)を参照してください。

使用方法

(4) ライン消灯

リモコン追尾受光器の赤外線通信窓を墨出し器に向けて電源スイッチを短押しするとライン光が消灯します。ブザー音が「ピー」と鳴ります。

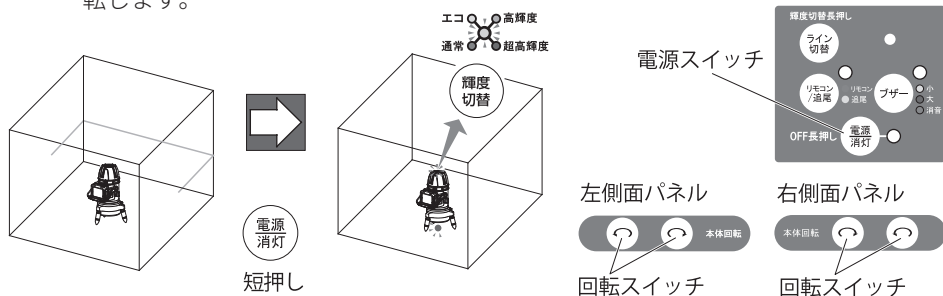
墨出し器本体の下部スポット光と輝度切替表示LED（緑色）が点滅します。

ライン光の再点灯は、消灯前の輝度で投射します。

墨出し器の操作パネルのスイッチのいずれか又は、リモコン追尾受光器のライン切替、側面パネルの回転スイッチもしくは電源スイッチのいずれかを押します。

側面パネルの回転スイッチを押すと墨出し器が回転します。

側面パネルの回転スイッチを押した場合は、ライン光点灯と同時に墨出し器が回転します。



注

- ・リモコン追尾受光器でラインを消灯したまま墨出し器を収納・運搬しないでください。ロックされていけませんので精度不具合になります。墨出し器の電源を OFF にしてください。

自動追尾機能の使い方

1. 墨出し器の準備

墨出し器の電源を入れ、垂直ラインを投射します。

地墨ポイントに下部スポット光が一致する位置に墨出し器を設置します。

墨出し器を水平にします。円形気泡管の泡を赤い円の中央にるように調整します。

2. リモコン追尾受光器の設置

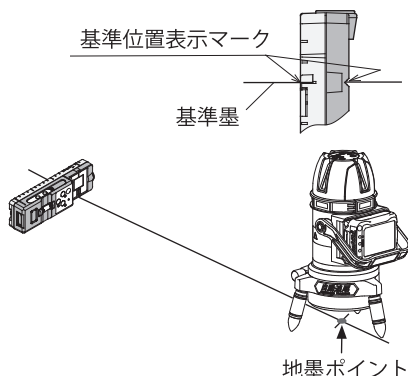
リモコン追尾受光器の電源を入れます。

リモコン/追尾スイッチを押します。

追尾表示LED（緑色）が点灯します。

リモコン追尾受光器の基準位置表示マークを所定の位置（基準墨）に一致するように横置きに設置します。

ヨコ置きの気泡管の泡が中央付近になるように設置してください。



注

- ・左右の基準位置表示マーク（溝）を基準墨に合わせて設置してください。誤差の要因となります。

使用方法

3. 自動追尾の開始

リモコン追尾受光器の上側になっている方の回転スイッチを押します。
回転スイッチは左/右回転どちらか垂直ラインが早く到着する方向を選んでください。
回転スイッチを押すと墨出し器の輝度は「通常モード」に切り替わり、回転を開始します。

注

- ・自動追尾を開始してからリモコン追尾受光器を上下反転させないでください。正しい動作をしなくなります。

自動追尾中に回転スイッチを押すと回転が一旦停止します。
再度回転スイッチを押すとスイッチの方向に自動追尾を再開します。
自動追尾中に回転方向と反対方向の回転スイッチを押すと反転します。

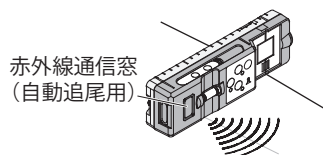
4. 自動追尾の完了

垂直ラインが受光器のセンターに合うと緑色LEDが点灯し、約2秒間連続点灯後に、ブザーが「ピーッピィ」と鳴って自動追尾動作を完了します。

注

- ・自動追尾動作中にレーザー光もしくは赤外線通信を障害物（手など）で遮られると誤動作することがあります。

一定時間内に追尾動作が完了しない場合は、自動的に回転を停止します。



赤外線通信窓
(自動追尾用)

5. 自動追尾を中止する。

リモコン追尾受光器のリモコン/追尾切替スイッチを押すと回転を停止し、追尾を中止します。

注

- ・リモコン追尾受光器の電池が消耗した場合、墨出し器の回転が停止します。

使用方法

リモコンチャンネルの切替

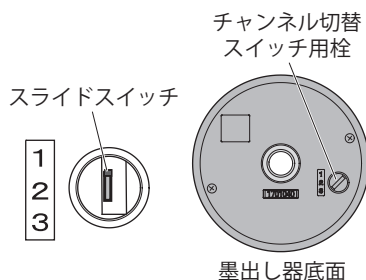
リモコン追尾受光器と墨出し器は赤外線通信を行います。

同じ場所で本品を2台以上使用する場合は、誤動作を防止するためチャンネルを変更してください。チャンネル切替はリモコン追尾受光器と墨出し器の両方を以下の手順で同じチャンネルに設定します。

チャンネルは「1」～「3」の3チャンネル（出荷時は1チャンネルに合わせてあります。）

1. 墨出し器側

- ① 墨出し器底面にあるチャンネル切替スイッチ用栓をコイン等ではずします。
- ② チャンネルを切り替えます。
チャンネル切替は図のようなスライドスイッチを任意のチャンネル番号に合わせます。



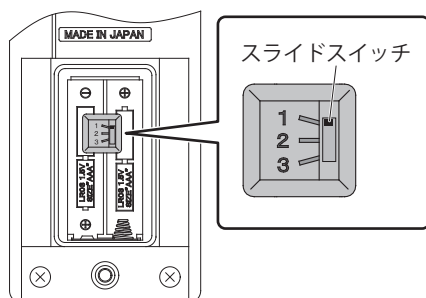
注

・基板に触れないようにしてください。

2. リモコン追尾受光器側

- ① 電池蓋をはずします。
- ② チャンネルを切り替えます。

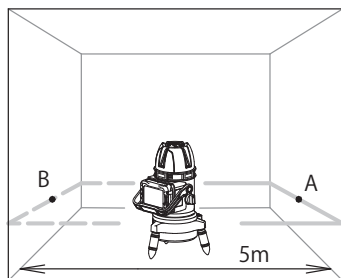
チャンネル切替は図のようなスライドスイッチを墨出し器側のチャンネル番号に合わせます。



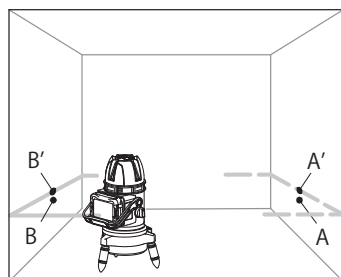
精度の点検

■ 点検して誤差が大きい場合は、お買上げの販売店または、最寄りの当社営業所にお申し付けください。

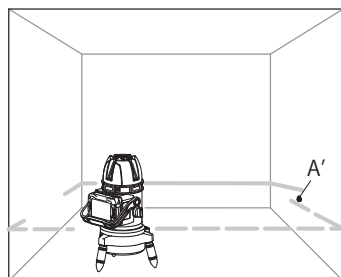
1. 水平ライン精度の点検



- ① 両壁まで約 5m の中央に墨出し器を設置します。
- ② 気泡管の泡が赤い円印の中央にくるよう調整します。
- ③ 壁面に投射させた水平ライン光の位置に印 (A) をつけます。
- ④ 本体を180°回転させ水平ライン光の位置に印 (B) をつけます。



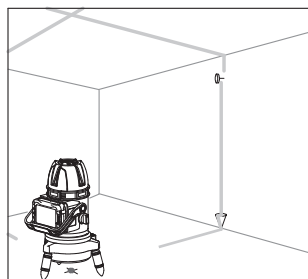
- ⑤ 墨出し器を壁面から1m離れた位置に移動し、気泡管の泡を中央に調整します。
- ⑥ 先ほど印したB点付近の水平ライン光の位置に印 (B') をつけます。
- ⑦ 本体を180°回転させ水平ライン光の位置に印 (A') をつけます。
(A-A') と (B-B') の差が1mm以内であれば正常です。



- ⑧ 本体を水平回転し水平ライン光が先に記した点 (A') との差が最大になるズレを確認します。
A'点とのズレが1mm以内であれば正常です。

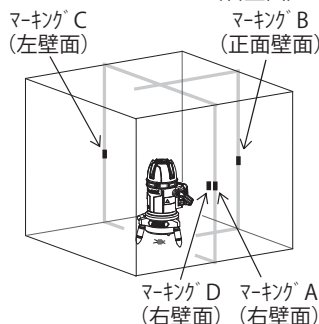
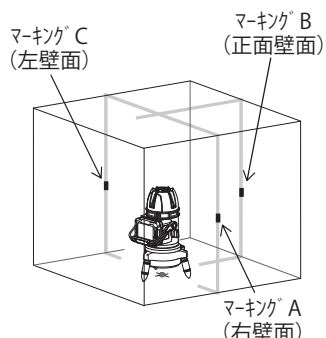
精度の点検

2. 鉛直点および垂直ライン精度の点検



- ① 床から約3m離れた壁面に「下げ振り」を設置します。
- ② 墨出し器を壁面から3m～5m離して設置します。
- ③ 気泡管の泡が赤い円印の中央にくるよう調整します。
- ④ さげふりモードかおおがねモードに切り替えます。
- ⑤ 天井に投射された鉛直点を観測しながら墨出し器を水平回転させます。
鉛直点がライン光の幅以上に動かなければ正常です。
- ⑥ 墨出し器を水平回転させ垂直ライン光を「下げ振り」の糸に一致させます。
回転微調整つまみを使用すると正確に合わせることができます。
垂直ライン光と「下げ振り」の糸が合っていれば正常です。

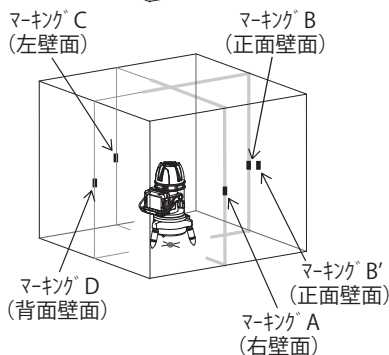
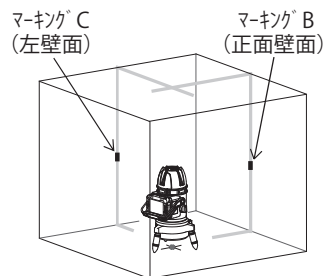
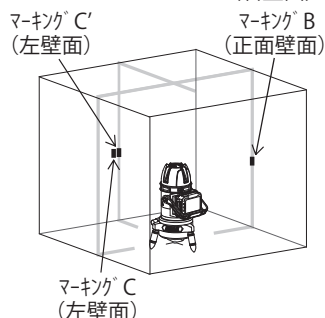
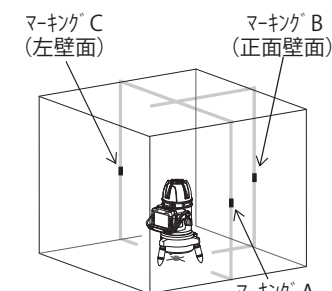
3. 通り芯精度の点検



- ① 壁の間が4～6mくらいの室内の中央付近に地墨マークを設け、本機をマークに設置します。
- ② 垂直ライン光を投射します。
- ③ 右壁面に投射された通り芯ライン光の中央付近にマーキングAをつけ正面の壁面に投射されたおおがねラインの中央付近にマーキングBをつけます。左壁面に投射された通り芯ライン光の中央付近にマーキングCをつけます。
- ④ 本機がずれないようにゆっくりと180°水平回転し、左壁面のマーキングCに右側垂直ラインを合わせ、右壁面に投射された左側垂直ラインの中央付近にマーキングDをつけます。
- ⑤ マーキングAとDの差が1mm以内であれば正常です。
- ⑥ 他の通り芯ライン光についても同様に精度点検をしてください。

精度の点検

4. おおがね精度の点検



- ① 壁の間が4～6mくらいの室内の中央付近に地墨マークを設け、本機をマークに設置します。
- ② 全ての垂直ライン光を投射します。
- ③ 右壁面に投射された通り芯ライン光の中央付近にマーキングAをつけ正面の壁面に投射された おおがねラインの中央付近にマーキングBをつけます。左壁面に投射された通り芯ライン光の中央付近にマーキングCをつけます。
- ④ 本機がずれないようにゆっくりと水平回転し、正面壁面のマーキングBに右側垂直ラインを合わせ、左壁面に投射されたおおがねラインの中央付近にマーキングC'をつけます。
- ⑤ マーキングCとC'の差が1mm以内であれば正常です。
- ⑥ 他のおおがねライン光についても同様に精度点検をしてください。

